



## 白起・王翦 (史記の中の名将軍)

10月②のごあいさつ

山内公認会計士事務所  
2022年10月11日(火)

白起は、秦の昭襄王に仕えた**古今の名将**であり、趙・魏・楚などとの戦争で、数々の勝利を収め秦の領土拡大に貢献した。

前260年、秦と趙の間で戦われた「**長平の戦い**」は、戦国時代最大の決戦であった。敗れた趙は40万人の将兵を失い決定的なダメージを受けた。趙は当初廉頗を将軍としたが、**廉頗は守りを固めて防御策に徹した**ので、将軍を趙括に代えた。

これを聞いた白起は、奇計を用い、敗走すると見せて誘い込み、補給路を遮断し趙軍を二つに分断し、食料の尽きた趙軍を撃破した。

白起は降伏した士卒**40万人**を秦の将来のために、はかりごとを設け、ことごとく生き埋めにした。

その後、秦は趙都“邯鄲”を攻撃したが、秦の兵力と国情から白起はこれに反対し、病気と称し動こうとしなかった。秦王の度々の命令に服従しない白起に対し、**秦の昭王**は、使者を遣わして剣を下賜し、**自害するように命じた**。白起は、剣を抜き首に押し当てながら呟いた。「これは、当然の報いだ、**長平の戦い**のとき、降伏してきた趙兵数十万人を騙して生き埋めにしたのだから」。

王翦は、秦の始皇帝に仕えた戦国末期を代表する名将で、**趙・魏・楚を滅ぼす**など、最大の軍功をあげて秦の天下統一に貢献した。

王翦の生き方は、白起と比較するとき、**際立った好対照**を示す。

秦の**若手の将軍李信**は始皇帝に「楚を平定する兵力は20万で充分です」と答えたのに対し、王翦は「相手は強敵、どうしても60万は必要でしょう」と答えた。始皇帝は王翦老いたりとして、李信と蒙恬に20万の兵を授けて楚へと出陣させた。緒戦に大勝した李信ではあったが、結局見るも無残な負け戦であった。

始皇帝は詫びて、**60万の大軍**を預け王翦の軍を灞水に見送った。その途中**王翦は戦勝の引出物として最上級の田地邸宅を懇請し**、始皇帝は笑って安心せよと言った。王翦は進軍の途中で度々引出物を懇請したので見かねて、側近に度が過ぎると忠告する者がいた。王翦は答えて、「**秦の全軍はわしに委ねられている**。大王は心安らかである筈はない。だからこうして財産のことばかり気にしていることを知らせているのだ」。王翦は楚軍を撃破した。1年余りの後、楚の全土を秦の直轄地に編入し、かくして始皇帝の**26年(前212年)**秦は天下を統一した。

参考：史記(白起・王翦列伝)、司馬遷史記(徳間書店)